

第7日

平成27年12月10日（木）

午前10時零分開議

○議長（浅尾静二君） 皆さん、おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は17名で会議は成立いたします。

本日の議事日程については、お手元に配付のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、9日に引き続き一般質問を行います。

それでは、最初に13番村上百合子議員の質問を許可します。13番村上百合子議員。

（13番村上百合子君登壇）

○13番（村上百合子君） おはようございます。13番議員、公明党の村上百合子でございます。本日は雨の中、傍聴ありがとうございます。

12月定例議会の一般質問2日目となりました。人口減少の進んでいる市町村が多い中で、移住されてくる方たちは現地にどのような魅力を感じて移住の意思決定をされたのでしょうか。

6日の西日本新聞の1面には、2010年からの5年間で県外移住者が約2.4倍にふえている記事が掲載されていました。移住者数のトップは鹿児島県霧島市の336人です。市内の中山間地に住宅を新築や増築した場合などに最高100万円の補助金支給がされています。また、農業体験と住宅物件見学ツアーなどの移住を促しています。

朝倉市でも市長の公約である親と子と孫と一緒に暮らせるまちづくりを目指して、私も子育てに優しい朝倉市、住みたい町、朝倉市づくりに挑戦していきたいと考えています。

これからは質問席より質問を行います。

（13番村上百合子君降壇）

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） 通告に従いまして、子供を産み育てやすいまちづくりについて質問いたします。

少子高齢社会の中で子供を産み育てやすいまちづくり施策は重要です。地方創生総合戦略の将来展望を示す長期ビジョンでも、若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる出生率を1.8に押し上げるための策定を国は地方自治体に求めています。

また、内閣府は平成26年度より地域の切れ目ない妊娠、出産、子育ての支援事業として産後ケアを含めたモデル補助事業を開始し、平成27年度においてはさらに事業強化し、妊娠、出産包括支援の展開を拡大させています。

妊娠された女性はホルモンのバランスの変動が大きく、心身ともに不安定な時期を迎え、疲労や不安からいろんなストレスを抱えています。近年、産婦人科医の減少に伴う分娩施設の減少から、ベッド回転のためか自然分娩で産後3日から4日、帝王切開では術後6日

目と早期退院の傾向にあり、産後間もない母親が十分なケアや指導を受けられるとは言いがたい状態が続いています。

また、退院後の家庭においても、核家族化や両親の就労や介護等のために育児サポートが受けられず、孤立化しているケースも多く見られると言われ、この状態が産後鬱や幼児虐待に進む傾向が多いようです。

この現状は3月の一般質問で私と11番議員も紹介していますので、まだ記憶にあることと存じます。

そういう状況下の中で、産後ケアの拡充が重要と思います。市の産後ケアのサポートの状況を伺いたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 産後ケアの状況なんですが、朝倉市においては子ども未来課と一緒に出産後に訪問事業を行っております。その結果、必要な方は1回にとどまらず継続して支援を行っている状況です。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） 訪問事業でいろんなケアが受けられていると考えてられますか。

○議長（浅尾静二君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 具体的なケアというよりは、出産後の注意とか、子育てに関する相談事業に応じております。それと、あとケアではありませんが、家事支援等の援助が必要という場合にはシルバー人材センター等を紹介している状況があります。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） 事業内容が回数とかわかれば教えていただきたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） シルバー人材センターの事業については把握しておりません。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） 委託事業の中で、その把握をすることがとても大事だと思います。そこに市民の中の産後ケアの必要な方たちがどれだけ十分なサポートが受けられてるかということも市も把握することができると思いますので、そういうところの委託のほうからの報告などはきちんとされてると思いますが、年に何回、そういう事業の報告を受けてるのでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） シルバー人材センターの事業に関しましては健康課のほうでは把握しておりませんが、おっばい相談等の相談には応じております。実績としまして168名の方に対応し、延べ171名の方に実施しております。

それと、志免町等で今年度開始されてるということでしたので状況等を伺ったんですが、

7月から11月の状況で、やっぱりシルバー人材センターを利用される方の枠が決まっておりますために、3組の利用があつてるということでした。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） 担当課のほうから志免町のヘルパー事業のそういう産後のケアの報告ありましたので、私も志免町の産前産後ヘルパー派遣事業の内容をここでお知らせしたいと思います。

この設置目的は、母親が出産前後で体調が不良なため、家事や育児を行うことが困難で、日中介護者がいない家庭にヘルパーを派遣し、家事や育児の一部を援助することにより子育て支援をすることを目的とした事業です。

この実施内容は、本業の実施主体は志免町がしておりますが、志免町の社会福祉協議会に委託して実施しています。

また、この派遣対象者に対しては、住所を有する人、それから妊娠が確認できる人で医師から安静の指示をされたり、日中家事が、また育児を行う者がほかにいない人、それから産後6カ月未満で心身の不調等により子供の養育に支障があり、かつ日中家事または育児を行う者がいない者とあります。

このサービス内容に対しては、家事に関する援助、育児に関する援助。それから派遣時間は朝の8時から夜の8時まで。1回2時間以内とされておまして、この回数が産前産後20回、子供さんがたくさんいらっしゃる方は40回までということになっておまして、この1時間当たり500円の有料となっております。これには減免措置がありまして、生保の方による世帯とか、生計中心者が前年度の市町村の非課税世帯とかは無料となっております。

この費用もそんなにかかっておりませんで、これはとても今本当に私は子育てをしたい、いろんなことしたいが体が不調があつて動けないという方たちに対して、もうとてもすばらしいサポートだと思います。この一番大事なときにこの産後ケアの取り組みをされることはとてもすばらしいと思いますが、担当課はどのように捉えておりますか、伺います。

○議長（浅尾静二君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 志免町以外のところも調査しましたところ、出生数が朝倉市よりかなり多いところに至ってもそんなに利用回数がないという状況がございますので、必要とは思いますが、今、朝倉市で見ますと里帰り分娩の方がかなり多くいらっしゃる現状が見られますので、今のところは他市町村の状況等を把握していきたいというふうに考えております。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） 里帰りしたり、自分のほかにそういう育児や日中の家事などをしてくれる方がいらっしゃる、3世代を一緒に住んでるとか、近くにいらっしゃるとか、

そういう方が多いといいんですけど、やっぱり中にはそういう核家族、転勤者、私の知ってる方は転勤して、もう出産間近だったんですけど、この6カ月、誰ともお会いしませんでしたと言う方がいらっしやったんですよ。怖くてドアをあけられないのもあるし、見知らない人たちがばかりだからということもあったし、そういう市の状況のいろんな取り組みも知らなかったと思いますが、いろんな周りにそういう方がいらっしやらない方が中にはいらっしやるんですね。ですから、そういう方を把握するためにもこういう事業を起こして、また啓発していく。いろんな子育て支援対策をホームページや市報だけじゃなくて、いろんなところで公表していくということはとても大事だと思います。例えば健康課と子ども課がイオンの前で、私たち人権セミナーのときは啓発運動を行ってますが、こういうのがあるんですよというのをのぼり旗ぐらいつくって、こういう買い物にやっと来られたお母さん方とか、そういう方にPRする、啓発していくということはとても大事なことです。事業をしていますだけでは市民に伝わらないと思いますので、この事業の展開をするときにしっかり取り組んでいただきたいと思っております。

市長、こういう取り組みが他市町村では行われてるんですけども、今、総合戦略の中にも入っていますし、これはそういう経費的な資源というんですかね、そういう対策もとられるようですが、このヘルパー派遣事業に対してどのように市長はお考えでしょうか、伺います。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） いろいろ聞いておりますと、現在、福岡県下でこの事業を実施されているのは久山町だけだということのようでありまして、ヘルパー派遣について。済みません、失礼しました、志免町だけだという話を聞いております。

いろんな事情があって、産後大変な親御さんもいらっしやるというのは理解できます。一義的にはやはり私が申し上げていますように、親と子と孫が住めば親御さんがそういったことの世話をできるんだろう、それが本来の形だというふうに私も思いますけれども、現実問題としてはなかなかそうはいつてないというのが現実問題です。そういった事業というものもあれば喜ばれる方もいらっしやるのかなというふうに思いますけれども、現時点でどうこうということじゃなくて、これは志免町が取り組んでおりますし、また全国にも事例があるというふうには聞いておりますので、そこらあたり十分研究しながら、どうしていくべきなのかということは考えさせていただきたいというふうに思っています。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） 母親が育児を幸せな気持ちで取り組めるということはとても大事でして、少子化の歯どめにつながると考えられます。真剣に捉えていただきますよう、よろしく願いいたします。

市の子育て支援センター事業について伺います。近年の利用者数と利用内容を教えてください。

○議長（浅尾静二君） 子ども未来課長。

○子ども未来課長（田中一孝君） 子育て支援センター事業及びそれに関連する事業の利用実績についてお答えいたします。

まず子育て支援センターは、私立保育園に地域子育て支援センターを併設し、子育て親子の交流の場の提供と交流の促進等を行うものでございます。場所としては市内の2カ所の私立保育園で実施しております。

利用実績といたしまして、ひろにわ子育て支援センター、開所日、週に5日間ですけど、24年度が6,353名、25年度が4,548名、26年度は5,879名、27年度、これは本年度の途中でございます、10月末現在で4,145名ということになっております。

もう一方の生い立つ子育て支援センターにつきましては、こちらのほうは週6日間の開設となっております。24年度が1,193人、25年度が1,018人、26年度が984人、27年度は10月末ですけど1,724名というふうになっております。

あと、子育てほっとサロン、つどいの広場でございます。これは主に乳幼児を持つ親と、その子供が気軽に集い、相互に交流を図るといったようなことで設置しておりますけど、ここにつきましては開所日が週に4日間でございます、平成24年度が7,677名、25年度が7,004人、26年度が6,638人、27年度、10月末ですけど4,132名というような状況になっております。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） この子育て支援センター事業が、その事業者としてはしっかり取り組んでいただいていると思うんですけども、先絞りのような感じがするんですね。それで、これは同じ方が何回も見えてると思いますが、新しい方たちに広まっているのかどうかというところの把握ができてますでしょうか。なかなか同じ方が、子供も成長するかもしれないませんが、どんどん少なくなってきたというような状況があるのじゃないかなと思っておりますが、その事業内容についてはどのようにお考えですか。

○議長（浅尾静二君） 子ども未来課長。

○子ども未来課長（田中一孝君） 今、お話をいたしましたのは延べ人数でございます。実人数といたしましては具体的な数字は把握はいたしておりませんが、例えば一例といたしまして、子育て支援センターにつきましては保育所に併設の関係で、地域の人口の関係もございまして、あと生い立つにつきましては25年とか26年度につきましては建物が改造中というような特殊な事情もございましたので、そういった意味で減っているのではなかろうかというふうに認識をいたしております。

もう1つ、つどいの広場につきましては、端的に申しまして、25、26とか若干減っておりますけど、基本的に22年とか23年とか、5年ぐらい前から比べるとかなりふえております。その当時は大体年間で5,000人前後だったのが、24、25あたりは7,000人前後になっ

てきてるといふ状況でございますので、単純に単年度だけの比較をすると若干減ってるような状況ではございますけど、大きな流れとしては一定程度ふえてきてるといふふうに思っております。

単年度の中で減っていった分については、ふえるような努力、PRのことも含めまして、あとお母様方に人気があるメニューでございます、例えばベビーマッサージ等のそういう講習会をいたしますと、駐車場といいますか、あいてるところに車をとめるスペースがないうらいいっぱい予約でいっぱいになるようなときもございますので、そういう意味で活動メニュー等もちょっと考えながらやっていきたいというふうには考えております。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百百合子議員。

○13番（村上百百合子君） 朝倉市はとても住みやすい、おいしい空気、水、またそれに伴う新鮮な野菜がたくさんとれてるところですけれども、子育てに対しては集う場が少ないとか、子供と遊ぶ場が少ない、公園が少ない、その支援に対する一括性、ワンストップというところがないような状況が見られます。この産婦人科に対しても朝倉市は1カ所です。早期の退院をしている状況がありますので、その後のケアが十分生かされて、また子育てに対しては乳幼児はここ、親子ではここというふうに分かれるのではなくて、一括した内容で子育て支援ができるような。

市長、3月に私、ネウボラというお話をさせていただきましたけど、ネウボラ、覚えていませんか、3月のことでしたから。いろんな相談受けながら、子供の成長とともに一括の同じ場所でいろんな指導が受けられ、その成長をずっと見届けてくれるセンターがあるんですね。そういうところの取り組みを朝倉市ももっと検討すべきではないかなという思いがいたしております。

ぜひ、つどいの広場もとてもいろんなカリキュラムの中で行事を行ってるところですが、あそこに車を持ってない方は行けませんし、ちょこちょこ行けるというようなスペースでもありません、駐車場も狭いですし、いろんなところで朝倉市にはこの市庁舎の建てかえの問題とかいろいろありまして、土地はいっぱい余ってるし、建物も余ってるんじゃないかなという考えがありますが、そういうところを活用した子育てに優しい朝倉市づくりに挑戦していただきたいと思いますが、そういうような考えを提案したいんですが、市長、どうお考えですか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 子育てがしやすいということは非常に大きなこれから先の人口減少含めた問題にとって大事なことだというふうに認識しております。

1カ所ですということの問題については、御存じのように朝倉市は面積が広うございます。じゃあどこですのかという問題。問題は場所は複数あっても、その制度というものが一貫した形で存在してなきゃならんということが大事なんだろうと思います。場所はやっぱりできればそれぞれの地域に幾つかあったほうが、これは利用する人も便利でしょ

うし、そういうことよりも、やっぱり朝倉市としての子育ての考え方なり制度というものがきちっと一貫してあるということが大事なことだろうと思いますんで、そういうことに気をつけながら今後、施策やっていきたいというふうに思います。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） 近いところにあるというのも1つのすばらしい利点であります。また、それが将来的にあそこに行けばずっと子供のことは相談できるのよというふうに、1カ所で誰もが知ってる、お母さんだけではない、お父さんだけではない、その家族というか、おじいちゃんもおばあちゃんも、あそこに行ったらいろんな人たちが来て、子供も友達になれて、いろんな異年齢文化も学びながら子育てができるという対策はとて面白いことじゃないかなと私は思っておりますので、これは本当に今から大きな問題だと思っております。この少子化を防ぐための一環として考えていただきたいと思います。

また、次の質問に移ります。ロタウイルスワクチン補助対策についてお伺いいたします。

先日、地域で子育て世代の方と懇談した中で、ロタウイルスワクチンが高過ぎて子供たちに接種してあげられないとの声をお聞きしました。ロタウイルスは5歳未満の乳幼児におけるウイルス性胃腸炎の主な原因、微生物であり、5歳までにほぼ全ての幼児がロタウイルスに感染し、胃腸炎を発症することが知られています。発症した場合、急速に脱水症状が進行するため入院治療を要するケースが多く、我が国においても5歳未満の乳幼児がロタウイルス性胃腸炎で入院する頻度は40人から60人に1人という高頻度であると言われております。

また、ロタウイルスに感染すれば特殊な薬や治療はなく、対症療法でしかありません。この対症療法というのはウイルスが体の外に出るのを待つだけで、脱水症状を起こさないように水分補給をするのみで、子供には大変苦しい病気です。さらに脳炎、脳症などの重篤な神経系合併症を起こすこともあり、日本における小児の急性肺炎、脳炎のうち4%がロタウイルスによるもので、これはインフルエンザ、突発性発疹症の次に多いとされています。

さらに予後が悪く、予後とは治療後の経過の見通しが悪く、後遺症率はインフルエンザ脳症の25%に比べ、ロタウイルス脳症は38%とインフルエンザより高くなっております。

このように子供たちの大切な未来を奪うような病気でもあります。子供を持つ親からすれば、やはり我が子に苦しい思いをさせないためにワクチン接種をしてあげたいのが親心であります。

しかし、ここで問題になるのが接種費用であります。このワクチンは定期接種に組み込まれておらず、接種費用が1回当たり1万2,000円から1万5,000円とも言われています。3価と5価とあるんですね、担当課は御存じですか、このロタウイルス。多くの方が受けていると思いますが、担当課はどのように捉えているか、ちょっとお聞きします。

○議長（浅尾静二君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） ロタウイルスの症状については議員が言われるとおりだというふうに認識しております。

現在、厚生労働省のほうで予防接種部会というのがございまして、平成26年3月告示の予防接種に関する基本的な計画、ロタウイルスワクチンも盛り込まれています。定期接種に向けて現在、ロタウイルスワクチンの副作用としまして腸重積等が発生するということがもわかっておりますので、その辺の検討がなされてる状況で、いずれ定期接種として盛り込まれるように計画には盛り込まれています。

先ほど申しました副作用に関しまして、副作用があつて、市単独で行った場合の補償等が、定期接種になりますと国のほうの補償が国、県で3分の2見ていただけるという状況がございまして、定期接種になることを今、注視しているところです。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） そうですね、定期接種になればいいんですけど、インフルエンザもなかなか子供たち、なりませんもんね。

副作用は病気で注射をしたり薬を飲んだりすれば必ずあるものですね。これは漢方薬でもあるものです。でも、この副作用に対する懸念と、その効果、ほとんどの子供がこのロタウイルスに感染するというので、私の近所の方も、ほかの3種混合とか、ほかのことで行って、すぐやっぱり小児科の先生はお勧めになります。高いんですよ、受けてますけど、あと1回受けなきゃいけないんですけど、これ、市でどうか少し補助はならないんですかって、もう本当に切実なことを聞かれましたけれども、そう思ってる方、たくさんいらっしゃいます。前、ヒブワクチンのほうも高額で、もう3月に受けてしまいましたという方が、4月からの市の補助で受けられる、無料になるところでしたけども、そういう回答がありました。多くの方が小児科から勧められたら、もう受けるような状況が今あるわけです。

ですから、そしてまたこういう脳症や急性脳炎などにかかる率も高いということがありますので、これはやっぱり小さい子供は病状が進む割合が早いです、体が小さいから。ですから、国でも試算してあるんですけど、医療費が入院、即やっぱり小児科の人たちはもう脱水症状を起こしてる子供に対してすぐ入院を勧められたり点滴をしますが、大体17万円から、入院で17万円、通院で5万円、総額で年間540億円にも上るそうなんです、国の経済的負担としては、これをやっぱり朝倉市でせっかく誕生した命を健全で健やかに育てていただくために取り組んでいただきたい。

熊本ではこのロタウイルスにかかった乳幼児が死亡したという経緯も産まれておりますし、60人から40人に1人かかるような症状です、5歳までの方が。ですから、この対策として子育て支援のもう最重要課題と捉えて、福岡県がどうしてか、その副作用に懸念してるのかわかりませんが、福岡県だけがこの進捗状況がとても悪いんですね。ほかのところ

は長崎、沖縄とか宮崎、いろんなどころではこのロタウイルスに対する予防接種助成がされているところですよ。

この朝倉市、子育て支援に優しい朝倉市を目指す市長として、この助成の方向性を伺いたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 私も質問に出ましたので、ロタウイルスとはどういうものかということをお調べさせていただきました。そうしますと乳幼児がほとんど抵抗力が弱いというようなこともあって、ほとんどの子供がロタウイルスの胃腸炎というのをやるそうです。考えても私どもも恐らく子供のときやったんだろーと思いますし、私も認識なかったんですが、私たちの子供もそういう病気してきてるんだろーというふうに思うんですよ。

ですから、みんなかかる病気で、それが結果的にいろんな形で、まずは親御さんにロタウイルスにかかわる胃腸炎に対する正しい知識を身につけていただく。結局これは小さいときから、もし行ったら便の色が変わったりいろいろするそうです。一番怖いのが脱水症だと。ですから、それも少しずつ水分を補給するというようなことをやれば大方の、これはそれは重篤にならんで済むというふうなこと。そういったまず知識を親御さんにきちっと行政のほうからも含めて持ってもらおうということがまず第一義じゃなかろうかなと思います。

その上で、じゃあワクチンをどうするのかという話でありますけれども、これは確かに効果あるんだろーと思います、私もよくわかりませんが。ただ、やはりこういったワクチンをする場合に、例えば助成する場合に行政として考えておかなきゃならんのは、その安全性、副作用という問題。例えばちょっと前ありました子宮頸がんワクチン、あれだけいいと言われてながら結局副作用が出てきた。この前も数日前もテレビでその副作用の人が映ってましたけど、ですからそういったもの、やっぱり十分本当にそういったもので大丈夫なのかということをお考えおかなならん。

しかし、私どもには残念ながらその副作用を検証する能力がございません、単独の市町村では。やはり国あたりがそういったものをきちっと出していただいて、その上でどうするか。それで今、ちょっと国のほうでいろいろそのことも含めて検討がなされてるというふうに考えておりますので、今すぐ、じゃあ慎重にやって、やっぱりやるときは果敢にやらなきゃいかんのですけども、今はやはり慎重にどういう状態なのかということを見きわめていく時期だというふうに考えてます。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） 実は私の子供も小さいときにロタウイルスとは知りませんでしたけど、お昼間にお乳を吐いたんですね。そのときは吐く物があつたんですけど、それがだんだんなくなって、吐く頻度も早くなって夜中に病院に行きました。本当に小さい足に点滴をして、うちの夫は泣いてました、そういう状況。

このロタウイルスという名前は知りませんでしたが、これは抵抗力の弱い子供は、お父さんの汗で感染したり、そういうちょっとしたことで感染するそうなんです。ですから、抵抗力の弱い子供をどうするかということはとても重要だと思います。食べ物食べたからというノロウイルスと違うんですね。家族にそういうちょっと暴飲暴食して、ちょっと吐いた後もちろんと処理が、それをちょっと当たっただけでも感染するとか、その汗でも感染するというような状況があるということに私は驚いておりますが、そういう安全性からこのワクチンを、これは注射じゃなくて飲むほうらしいんですけど、そのワクチンを投与することでこの病気から救えるという対策があるわけですから、よそに先駆けて朝倉市が取り組んでいただけたらと思っておりますので、また検討していただきたい、前向きに検討していただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

次に、農業振興支援施策事業について伺います。

この朝倉市の担い手の育成と確保についてどのように取り組んでいるか、また今、認定農業者が朝倉市にはいらっしゃいますが、その推移を伺いたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 農業振興課長。

○農業振興課長（仲山茂木君） まず認定農業者数でございます。平成20年度末ではございますけれども425経営体。27年度、これまだ途中でございますけれども407経営体でございます。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） きのうの一般質問でも9番議員が農業の衰退を、耕作放棄地の状態を質問しておりましたが、このやっぱり農業の後継者、農業の担い手が育成できるということは、やっぱりそこに若者がそれで生計ができるような状況が確保されなければならないと思いますね。ですから、農業振興に対してどのような指導を朝倉市は今回展開していこうとしているのかを伺いたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 農業振興課長。

○農業振興課長（仲山茂木君） 新規で就農される方たちを対象にしましたいいわゆる就農相談という形を今とっております。ワンストップという形で県の普及指導センター、あるいはJA、あるいはそして市の三者で構成をしております朝倉市就農支援協議会等によって、内容につきましては福岡のほうで就農相談会、これは年に2回、それと農業見学会、農業見学会につきましては市内の農業者、実際に農業される方たちに連れて行くと、その場所という形で、対象者はそのときそのときで違いますので。あと県の指導センターのほうで就農相談会の開催、あとは随時、市の農業振興課であったりとか、JAであったりとか、それとか県の指導センターであったりで随時相談を受けてるところでございます。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） 就農支援でいろんな相談会や見学会をして連れて行ってるということでした。どのくらいの方が参加されてるかが把握されてありますか。それから、それが就農につながった結果がありましたら教えてください。

○議長（浅尾静二君） 農業振興課長。

○農業振興課長（仲山茂木君） 正確な数字はちょっと持ってきておりませんが、去年もバス1台、マイクロバスをお借りしましてバス1台の人数を認定農業者でも農協の方に見学会をさせていただいております。

それと、以上でございます。

失礼しました。その後に就農されたかどうかにつきましては、ちょっとまだ何をもって就農したかちゅう定義なものはちょっとございませんので、実際に就農されたかちゅうのは定義等がございませんので、その中には相談会に、農業見学会に行ったとこと話をしていながら、自分もそこで学んで今から一緒にしていこうとか、それぞれでやっておりますんで、中には実際に就農された方はおられると思います。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） 就農されてる方がいると確信してるんですね。やっぱり担い手の、この新規就農の中にも担い手の方も含まれるというようなことがお話には、事前のお話には伺っておりましたが、こういう若い人たちがやっぱり朝倉市でこの将来農業を担っていく、TPPも参入、日本はしておりますが、地域のブランド化を進めて、朝倉市にはこういう特産があるという、今、柿や万能ネギやイチジクとかいろんな果物や野菜もおいしいのでありますが、そのブランド化に対する一押しが足りないと思いますね。

それから見学会もこういう車1台もするといったら結構40人ぐらい乗れるんじゃないですか。そういう対策がとられてるということに、私はもうとても好感持ちましたけれども、そういうアピールを博多駅とかいろんな人がたくさん見えるところにパンフレットをつくって、この朝倉市はこういう就農支援をしております、ぜひ朝倉市においでくださいというような対策、鹿児島のような対策をとられたらいいかなと思います。

11月に議会報告会をしましたときも、私は博多駅で熊本か宮崎でしたかね、のそういう就農支援、若者に対する就農支援のパンフレットを見ました。とてもわかりやすく行ってみたいなという感じを持ちました。朝倉市はこういう対策はとってないんですかというようにお話がありましたけれども、既に見学会にバス1台行けるような対策をとられてるということでしたら、この観光課とも取り組んでこういう支援の啓発に努めたらいいんじゃないかなと思っておりますが、その点、どのようにお考えですか。

○議長（浅尾静二君） 農業振興課長。

○農業振興課長（仲山茂木君） 先ほど福岡のほうで農業相談会と申しました。これは県のほうが主催でやってるものがございます、市外、あるいは県外の方たちを対象にした

ものでございまして、それ、福岡のほうに集まって、そしてそこから市町村別に分かれて相談をしてるという形にしております。農業見学会におきましても、ホームページとかでこういったものがありますよということでお知らせをしているところでございます。パンフレットまではちょっとありませんけど。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百百合子議員。

○13番（村上百百合子君） パンフレットをつくっているいろんな、福岡県でしてるんですから、福岡県じゃないとこですよ、早く言えば。もっと広くいろんなところから、福岡県から鹿児島に行ってる人がいらっしゃるんですよ。ですから、よそから来たいという人もいますよ、福岡いいな。私の娘も遠くに住んでますけど、朝倉市、福岡ってとてもいいとこって、周りにいろんな劇場やらあって、そしておいしい物が食べられて、福岡市内にも近くに行けてとてもいいとこだと感じたと言うんですね。ここを去って感じたと言うんですよ。ですから、福岡でしてることを福岡に置いてもしようがないから、ほかのところにいろんなところにもっともっと広げて、都市圏じゃなくてもここよりももっと寒いところから暖かいところに来ていただく方とか、いろんなアピールを。朝倉市には本当にPRすべき誇れるものがたくさんあると思うんです。そういうのを商工観光課とかいろんな連携したパンフレットが必要じゃないかなと思います。PRがとても下手な行政だと私は思っておりますが、どのようにお考えですか、副市長、伺います。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 今の御意見、厳しく受けとめたいと思います。

先ほど引き合いに出されました、霧島市あたりへの移住が多いということでございますけども、私もこういう話聞いておまして、今、東京一極集中ということを言われておりますけども、これはさながら例えてみれば九州内では福岡に一極集中してるということで、福岡市です、がメーンターゲットになって、そういった移住者の争奪合戦になってるといふような様相を呈してるということは伺ってます。

そういった意味で、やはり私どもとしてはそういった農業に魅力を感じる方の大きなターゲットというのは、数的にやはり福岡市あたりが中心ではないかなというふうに考えておまして、先ほど課長答弁申し上げましたように、福岡市でのそういった相談会、あるいは見学会、そういったところに重点を置いてるところでございます。

もちろん議員おっしゃいますようにほかの県、他の地域についても情報発信していくことは必要だと思っております。これにつきましては今の段階ではホームページの中で例えば相談会、あるいは補助制度、研修、そういったものについて情報発信をしてるところでございますけども、まだまだ十分とは思っておりません、さらに内容を充実させていくということも図っていきたく思いますし。

また、これは消費の面でございますけども、そういった就農というのとあわせまして消

費の面、この面でも現在、ちょっと事例を挙げますと農業振興課だけではなくて健康課のほうとタイアップしております、朝倉の地元の食材を使った料理教室、あるいはレシピ情報、こういったものも情報提供なり、あるいは料理教室の開催という形でやっておりますし、もう1点、例として挙げますと地産地消の店の推進ということもやっております。これは朝倉の地元食材を使っただけでおる飲食店等をのぼり旗を立てていただいて、そこで出されております例えばランチメニューですとか、そういったものを市のホームページ等でも順次公開をしてるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） 各課が連携してそういう取り組みを、料理教室や取り組んだり、生まれてくるということはとてもいいことだと思っております。私も健康課がされた階段の一つ一つ上がるたんびに健康に上っていったるというような状況を感じながら体を鍛えておりますが、なかなか体重が減らないところです。もっと健康に留意していきたいと思っております。

まずはその担い手と同時に農作荒廃地の活用についてですが、この農機具も入らないような農地に対して、そこを山に戻すというようなお話が前回の議会ではあったような、そういうもう農機具も入らないようなところでもう荒廃してるところ、市が森林浴とかそういう対策のためとか、そういうところでは対策はできないでしょうか。農地のいろんな縛りがあるということですか。いろんな対策をとりながらしてもらいたいんですけど、やっぱり無理なんですね。これはちょっと私の思いでしたけれども。

市のブランド開発について、市の取り組みを伺います。今後どのような啓発でブランド化を進めようとしているのか。やっぱり今、副市長が言われたように、生産と同時に販売力が必要だと思うんです、ブランド化には。ですから多くの人たちがそれに賛同して、この朝倉市のブランドにしていこうという意欲を持たせることも、この市の行政の取り組むべき姿じゃないかなと思っておりますが、そういう面からの市ブランド開発について伺います。

○議長（浅尾静二君） 農業振興課長。

○農業振興課長（仲山茂木君） 市のブランドにつきましては、皆様もよく御存じのとおり、博多万能ネギであったりとか富有柿があります。あと加工品としてもジャムとか、あるいは漬物とか、ドレッシングとか、また柿を使ったお菓子等がたくさんあります。イチジクのとよみつひめ、これは今はもう県内でトップを争う産地となっております。朝倉市はその中で8割弱占めてるところでございます。米の元気つくし、これは日本穀物検定協会が行っております食味ランキングで、平成23年度から4年連続で特Aを持っているところでございます、現状としては。

これからの振興策といたしましては、市の単独費を計上して、平成23年度ではございますけれども、JAに一時確保施設の建設の補助をしております。あと平成25年度からでは

ございますけれども、県費事業に市単独費を加算をしていただいております。

また、秋王の苗代の補助をしておるところでございます。

また、県の普及指導センターと、あとはJ Aと市の三者によりまして、26年度からではございますけれども特産品の開発等の協議を行ってるところでございます。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百百合子議員。

○13番（村上百百合子君） 23年度からJ Aの指導、それから県の普及所の指導なども得て、柿の秋王ですかね、種がなくて大きい柿ですかね、秋王の指導とか、イチジクが県で8割、イチジクの8割というのは生産高でどのくらいなんですか。8割が全体的にどのくらいかというのがちょっと微妙なんですけれども。

やっぱり特産物として、また、この朝農跡地の活用にもつなげていけると思いますが、この地産地消で地元の特産を使って加工したスイーツとかお料理をずっとアピールして、それもブランドになるというような対策も必要じゃないかなと思っております。そういう広げた、いろんな連携をとりながら地元の認定農業者、またそういう販売してる個人事業者、いろんな方たちが地元のものを使って売り出して、それを特産できるという、いろんな生産物のブランドと、また加工品のブランドというような連携をとっていくのもとても朝倉市の活性化につながるんじゃないかなと思っておりますので、そういう面でやっぱり連携が必要なのは副市長や市長のいろんな英断に乗ると思っておりますが、市長は農業政策に対してはとても県議のときから取り組んでこられたと思っておりますが、朝倉市の発展のためにどう農業振興に取り組んで、この事業を展開しようと思ってるか、最後に伺います。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） どう取り組むか、非常に大きな質問です。ここで、この残り時間でそれを全てを言うのは時間が足りんかと思っておりますけれども、いずれにしましても、今、これは日本の農業といいますか、もちろん朝倉市農業も非常に大きな曲がり角に来ておるといふ認識をしております。

それは1つには、やはり人口減少するということも含めて、いわゆる今まで何やかんや言うても地域の農業の主産物でありました米というものがどんどん今から需要の減少をしていくだろう。勢いこの地域は、もちろんこの地域は先人、皆、先輩方の努力でいろんな野菜、果物、いろんな産物ありますけれども、やっぱりその中で米というのは非常に大きなウエートを占めてるわけですね。それにかわるものというのはなかなか見つからないということです。

確かに言われるようにブランドがあります。しかし、それはその生産をしてる人たちだけのブランドであって、朝倉市全体の中の農業のトップを走ってますけれども、じゃあ全体がそれで潤ってるかと、そうじゃないんです。ですから、そこらあたりを十分考慮しながら、今、今後考えていかなきゃならんことは、いわゆる土地利用型と言われる米、麦、大

豆、これで生活をしていくというと、やはり20ヘクタールから30ヘクタールの耕作面積がないと、今、土地利用型だけでは生活できんという状況です。

そういった中で、じゃあこれが今から需要が減っていきます。そうしたときにどうすればいいのかということ、このことはやはり非常に大きな問題で、この地域において米にかわる産物というもの、かわるというよりも、米と、減った分、その分を埋め合わせする産物、それもやはり余力がかからんで、ある一定の収益があるようなものをどう今から見つけていくか。このことについてはいわゆる普及センターとも話をしてますし、何とかいろいろ検討していく。そういったことを今より新しい時代に向けてやっていかなきゃならん。

そして先ほど後継者の問題、担い手の問題が出ましたが、これ担い手といいましても2種類あるんです。というのは、いわゆる農家の子弟が担い手としてまた育っていくという問題と、新たに農業というものに魅力を感じて参入していただける人。私もいろいろ回りますけど、いわゆる農家の子弟はもうかってる。もうかってるという言い方が、ちゃんと所得を上げて農家は後継者できてます。残念ながらそうじゃない農家が多いんで、担い手がなかなか集まらん。

一方、今度新しく参入してこようとする人、これについては非常に大きなハードルがあるんです、農地の問題。しかし、そういった中でも、これは市内のある大規模に経営してる農家です。そこについでって、そこに研修に来てる、研修というより、もう実は甘木に住んでそこに行ってる人の御夫婦です、若い、会いました、いろんな話をさせていただきました。そういった人たちがやはり本当に意欲を持って農業に取り組めるような環境を整えるということも大事なことです。

いずれにしても、そこにはある一定の所得のある農業というものをやっていかないと無理でしょうし、ただ1つ、ここであるのは、今までと同じだけじゃあ農家戸数が必要かと言われると必要じゃないんですね、今、大規模にしていかなきゃならん。そこらあたりをどう今後朝倉市においてつくり上げていくかということが非常に大きなテーマとしてあるんだろうというふうに思います。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員。

○13番（村上百合子君） 朝倉市に住みたい、子育てしやすい朝倉市を目指してこれからも頑張っていたきたいと思しますのでよろしく願いいたします。

これで一般質問を終わります。

○議長（浅尾静二君） 13番村上百合子議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午前11時零分休憩